製造業向け収益向上のための原価管理システム構築【オンラインライブ】（4126217）

「儲かる工場」の実現に向けた仕組み、仕掛けを紹介します。一番大事なことは正しい考え方・方法と手順でやるということです。まず、本当の「原価」とは何かを明らかにし、次の一手として原価管理システムを構築します。何よりも大切なことは正しい「管理技術」に気付くことです。この管理技術の一つが原価管理です。

開催日時	2026年8月25日(火) 9:00-16:00ライブ配信
JUAS研修分類	ビジネススキル(業種・業務知識)、共通業務(資産管理・人的資産管理)
カテゴリー	IS導入（構築）・IS保守 専門スキル
講師	八木弘泰 氏 （株式会社管理技術ラボ　代表取締役 ） 中小企業診断士、特種,一種情報処理技術者。 富士通の SE として、製造業向けのシステム構築に17年間従事。 本邦初の生産管理パッケージ「MAPS-V1」を開発。2010年「管理技術」の製造業・農業他への普及、定着化のため、「管理技術ラボ」を設立し、「製造業の競争力強化」のため、超上流工程から定着化・効果測定まで「業務再構築」が実施できる「ASGUIDE」を開発し、事業展開を行っている。 注)「ASGUIDE」とは、業務再構築のため管理技術を駆使したコンセプト・メソッド・ツールを体系化した方法論
参加費	JUAS会員企業/ITC：35,200円 一般：45,100円（１名様あたり　消費税込み、テキスト込み）【受講権利枚数1枚】
会場	オンライン配信（指定会場はありません）
対象	原価管理の設計、保守、運用を担当されているSE 中級
開催形式	講義
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態
ライブ配信（Zoomミーティング）【セミナーのオンライン受講について 】
■テキスト
開催７日前を目途にマイページ掲載
■開催日までの課題事項
特になし

製造業向け収益向上のための原価管理システム構築
～「儲かる工場」の実現のために「管理技術」に気付く～

残念なことに「一生懸命に間違ったことをやる」ということが散見されます。
一番大事なことは正しい考え方・方法と手順でやるということです。
本セミナーは「儲かる工場」の実現に向けた仕組み、仕掛けを紹介します。
まず、 本当の「原価」とは何かを明らかにし、次の一手として原価管理システムを構築します。
何よりも大切なことは正しい「管理技術」に気付くことです。この管理技術の一つが原価管理です。

■主な内容
第１部 原価管理で利益を上げる
１．すべての企業で「原価計算」は実施
－それは、財務会計目的の「ドンブリ勘定」の原価計算です
２．儲けるための原価計算は「製品別原価計算」
－製品別とは、中間品目も部品も原価が計算できる仕組み

３．原価計算は、単純な計算
－材料費、労務費、経費の費目毎に「単価×数量」で求める
－費目の設定で悩みます－目的を定め自由に費目設定する
－化粧品会社は材料費を容器費・原料・副原料に費目を設定
４．原価計算の概念図
－一般の原価計算とABC原価
５．実際原価計算のウソ
－コンピュータで正確に製品別実際原価表が計算されるが
６．真の原価とは
－本当の「製品の原価を知りたい！それは実際原価、標準原価
－多くのトップは、「実際原価」を知りたい
７．真の原価は標準原価
－実際原価は製造都度変動、製造後確定する事後情報
－標準原価とは、「正しい方法・手順」で製造された際の原価
８．「正しい方法手順で製造された際の原価」が標準原価
－歩留０、操業度100％等々の理想原価ではなく、現行の
　レベルの生産技術等を加味し、かつ科学的に設定された原価
９．正しい実際原価を求める解決
－「基準・標準」の存在に対して、「実際」を把握し、「差異」を改善
－原価は、前述の単価×数量ですから、単価差異＋数量差異＝原価差異
－さらに単価差異をドリリングして、操業度差異、予算差異等を把握改善
１０．原価管理は標準原価と実際原価で成り立つ
－基準・標準の無い仕組みに「管理は存在しない」＝管理技術の基本
１１．何が何でも「標準原価」の仕組みを作る。（部品・原材料）
－原価標準を設定する
－５％程度、「作業標準」を真面目に設定、他の品目はポイント法で設定

第２部 原価管理システム構築手順
１．目的の選択
－財務会計に正しい原価を提供したい
－特定の製品の実際原価を知りたい
－商談毎の見積原価を算出したい
－限界利益から製品のプロダクトミックスを
－原価低減を継続的に実施したい
２．原価計算の選択
－商的工業会計
－特殊原価調査と原価計算制度
－見積原価計算
－直接原価計算と全部原価
－標準原価と実際原価：原価管理
３．原価管理の構築手順
－目的の選択
－原価低減を継続的に実施する
－抜本的構築と暫時的構築
４．設計項目と方法
－費目の設計
　原価部門の設計
－チャージ計算
－製造間接費の配賦基準－ABC原価
５．定着化と管理職の役割

第３部 管理技術で利益を上げる
１．管理技術による利益の獲得（利益５割アップ）
－「管理技術による利益」
－獲得される「利益項目」の説明
－「業務再構築（BPR）」の目的は、「新たな利益の獲得」
　その一部が原価管理

２．管理技術とは
－業務知識ではない
－「正しい考え方・正しい方法手順」が存在する
３．業務毎の正しい方法手順とは－各業務の目的は何か
－在庫管理：「在庫精度の維持」が目的…在庫低減ではない
－工程管理：「作業指導」が目的
－某社の工程管理のタブレット失敗例 製造業向け収益向上の
ための「原価管理システム構築手順」

＜受講者の声＞
・八木講師の原価管理のセミナーは以前にも何回か拝聴しているが、受講の都度新しい気付きや発見がある。
実践に基づいたお話しなので、知識の習得はもちろんですが、実用的でリアリティがあり非常に参考になる。
・業務で原価に関わる機会はありましたが、中身について学ぶ機会は無かったので勉強になった。
今まで正しいと思い込んでいた内容が、実は本当の正しさと異なる、という気付きになった。
今回学んだ内容を活かしたい。
・初心者でもわかりやすい言葉でご説明頂き、また、重要な部分を何度もご説明くださり、
導入としてとてもよく理解できた。
・管理会計/原価管理について、体系的に整理されていて理解しやすかった。
講師の方の経験に裏付けられた内容で、各項目の課題や留意点を学ぶことができた。